

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月11日

【四半期会計期間】 第192期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 大日本住友製薬株式会社

【英訳名】 Dainippon Sumitomo Pharma Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 多田正世

【本店の所在の場所】 大阪市中央区道修町二丁目6番8号

【電話番号】 06 - 6203 - 5308

【事務連絡者氏名】 経理部長 加島久宜

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区道修町二丁目6番8号

【電話番号】 06 - 6203 - 5308

【事務連絡者氏名】 経理部長 加島久宜

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第191期 第2四半期 連結累計期間	第192期 第2四半期 連結累計期間	第191期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	188,574	178,026	379,513
経常利益	(百万円)	14,381	14,480	28,616
四半期(当期)純利益	(百万円)	8,650	9,569	16,796
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	2,654	8,079	12,065
純資産額	(百万円)	337,252	328,486	323,983
総資産額	(百万円)	601,906	566,294	589,868
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	21.77	24.09	42.27
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	56.0	58.0	54.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	30,030	34,113	55,041
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	314	6,307	6,567
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	9,120	24,314	20,335
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	78,140	86,201	82,868

回次		第191期 第2四半期 連結会計期間	第192期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又 は四半期純損失金額()	(円)	1.58	3.73

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 第191期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

医薬品業界におきましては、画期的新薬創出の停滞や新薬開発コスト増大に加え、承認審査の厳格化や抜本的な医療制度改革が世界的に進むなど、厳しい事業環境が継続しております。

このような状況のもと、当社グループは、「国内収益構造の変革」、「海外事業の拡大と収益最大化」、「将来の成長のためのパイプラインの強化」を本年度の最重点課題として掲げ、事業活動を展開しております。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,780億26百万円（前年同四半期比5.6%減）、営業利益は147億26百万円（前年同四半期比1.4%減）、経常利益は144億80百万円（前年同四半期比0.7%増）となりました。また、旧東京事業所の土地等の売却益を特別利益に計上したことから、四半期純利益は95億69百万円（前年同四半期比10.6%増）となりました。

当連結会計年度から、マーケット毎の医薬品事業の業績管理を一層強化することを目的に、報告セグメントの区分見直しを行っております。セグメント別の業績は次のとおりであります。

日本

当社の国内医薬品事業を中心とする業績であります。高血圧症治療剤「アバプロ」、非定型抗精神病薬「ロナセン」、末梢循環改善剤「プロレナール」の戦略品や、パーキンソン病治療剤「トレリーフ」、肝細胞がん治療剤「ミリブラ」、ビッグアナイド系経口血糖降下剤「メトグルコ」等の新製品に営業資源を集中し、売上高の増加に注力するとともに、ローコスト経営の徹底等、継続的な経営効率の追求による利益の拡大に積極的に取り組みました。しかしながら、前期に実施した成長ホルモン事業譲渡の影響等もあり、売上高は886億23百万円（前年同四半期比1.8%減）、セグメント利益は338億78百万円（前年同四半期比0.1%減）となりました。

北米

サノピオン・ファーマシューティカルズ・インク（以下「サノピオン社」）を中心とする米国子会社および当社の北米事業の業績であります。当社のグローバル戦略品である非定型抗精神病薬「ラツェダ」の早期の市場浸透・販売拡大に注力するとともに、催眠鎮静剤「ルネスタ」、短時間作用型 作動薬「ゾベネックス」等の既存品にも積極的なプロモーション活動を行いました。売上高につきましては、現地通貨ベースでは増加したものの円高の影響を受けたことにより561億70百万円（前年同四半期比7.6%減）となりました。また、セグメント利益は「ラツェダ」関連の費用が増加したことにより、11億7百万円（前年同四半期比81.4%減）となりました。

中国

住友制薬（蘇州）有限公司および当社の中国事業の業績であります。カルバペネム系抗生物質製剤「メロペン」（現地販売名「美平」）の販売が堅調に推移したこと等により、売上高は33億55百万円（前年同四半期比26.2%増）となりましたが、販売費及び一般管理費が増加したことによりセグメント利益は9億5百万円（前年同四半期比5.9%減）となりました。

海外その他

当社から北米および中国以外への輸出等の取引高で、売上高は97億69百万円（前年同四半期比6.0%減）、セグメント利益は44億88百万円（前年同四半期比17.2%減）となりました。

上記報告セグメントの他に当社グループは、食品素材・食品添加物および化学製品材料、動物用医薬品、診断薬等の販売を行っており、それらの事業の売上高は201億7百万円（前年同四半期比18.1%減）、セグメント利益は16億17百万円（前年同四半期比10.2%増）となりました。

(2) 財政状態

資産については、受取手形及び売掛金の減少や特許権等の無形固定資産の償却等により、総資産は前連結会計年度末に比べ235億73百万円減少し、5,662億94百万円となりました。

負債については、有利子負債が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ280億76百万円減少し、2,378億8百万円となりました。

純資産については、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加が配当金の支払による減少を上回ったこと等により、前連結会計年度末に比べ45億2百万円増加し、3,284億86百万円となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は58.0%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費等の非資金項目および売上債権の減少等により、341億13百万円の収入（前年同四半期は300億30百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券および有形固定資産の取得等による支出が、有価証券の償還等による収入を上回り、63億7百万円の支出（前年同四半期は3億14百万円の収入）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済や配当金の支払等により、243億14百万円の支出（前年同四半期は91億20百万円の支出）となりました。

これらの結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ33億32百万円増加し、862億1百万円となりました。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は272億88百万円であります。なお、当社グループは、研究開発費をグローバルに管理しているため、セグメントに配分しておりません。本年1月に国内で承認を取得しておりました「シユアポスト」は本年5月に発売しました。

なお、国内での主要な開発状況については以下のとおりであります。

(平成23年10月31日現在)

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症
第 相	SM-13496 経口剤	ルラシドン塩酸塩	統合失調症
	シュアポスト 経口剤	レバグリニド	(新効能) 2型糖尿病(ビッグアナイド系薬 剤との併用療法) (新効能) 2型糖尿病(チアゾリジン系薬 剤との併用療法)
	メトグルコ 経口剤	メトホルミン塩酸塩	(小児用量追加) 2型糖尿病
第 相 準備中	AS-3201 経口剤	ラニレスタット	糖尿病合併症
第 相	DSP-8153 経口剤	アムロジピンベシル酸塩、 イルベサルタン	高血圧症(配合剤)
	SMP-986 経口剤	afacifenacin fumarate	過活動膀胱
	プロレナール 経口剤	リマプロスト アルファデクス	(新効能)手根管症候群
第 / 相	WT4869 注射剤	未定	骨髄異形成症候群
第 相	DSP-3025 点鼻剤	未定	気管支喘息、アレルギー性鼻炎
	WT4869 注射剤	未定	固形がん
	DSP-6952 経口剤	未定	便秘型IBS、慢性便秘
	DSP-1747 経口剤	obeticholic acid	原発性胆汁性肝硬変(PBC)、 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)
第 相 準備中	DSP-5990 注射剤	セフトロリン・フォサミル	MRSA感染症

また、海外での主要な開発状況については以下のとおりであります。

(平成23年10月31日現在)

開発段階	製品/コード名 剤形	一般名	予定適応症	国/地域
申請中	ステデサ 経口剤	エスリカルバゼピン酢酸塩	てんかん(併用療法)	米国
	シクレソニド HFA Nasal Aerosol 点鼻剤	シクレソニド	(新剤形)アレルギー性鼻炎	米国
	SM-13496 経口剤	ルラシドン塩酸塩	統合失調症	カナダ
	ラツータ 経口剤	ルラシドン塩酸塩	(上限用量変更) 統合失調症: 1日160mg	米国
第 相	ラツータ 経口剤	ルラシドン塩酸塩	(新効能)双極性障害うつ (新効能)双極性障害メンテナンス (新効能)大うつ(混合症状)	米国・ 欧州等 米国・ 欧州等 米国
	アムルピシン塩酸塩 注射剤	アムルピシン塩酸塩	小細胞肺がん	中国
	ステデサ 経口剤	エスリカルバゼピン酢酸塩	てんかん(成人単剤治療)	米国
第 相	SMP-986 経口剤	afacifenacin fumarate	過活動膀胱	米国・ 欧州
第 相	DSP-8658 経口剤	未定	2型糖尿病、 アルツハイマー病	米国
	SEP-228432 経口剤	未定	神経因性疼痛、うつ病	米国
	DSP-1053 経口剤	未定	うつ病	米国

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500,000,000
計	1,500,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	397,900,154	397,900,154	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	397,900,154	397,900,154		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年9月30日		397,900		22,400		15,860

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
住友化学株式会社	東京都中央区新川2丁目27番1号	199,434	50.12
稲畑産業株式会社	大阪市中央区南船場1丁目15番14号	27,282	6.86
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	14,531	3.65
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	11,202	2.82
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	10,530	2.65
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(株式会社三井住 友銀行退職給付信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	7,000	1.76
住友生命保険相互会社	東京都中央区築地7丁目18番24号	5,776	1.45
あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社	東京都渋谷区恵比寿1丁目28番1号	4,928	1.24
大日本住友製薬従業員持株会	大阪市中央区道修町2丁目6番8号	4,158	1.05
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	3,144	0.79
計		287,985	72.38

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(株式会社三井住友銀行退職給付信託口)7,000千株は、株式会社三井住友銀行が保有していた当社株式を退職給付信託に拠出したものであり、当該拠出後における同行の当社株式保有数は、1,125千株(持株比率0.28%)であります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 588,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 397,102,700	3,971,017	
単元未満株式	普通株式 209,254		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	397,900,154		
総株主の議決権		3,971,017	

- (注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、すべて当社保有の自己株式であります。
- 2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が200株および株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株含まれております。但し、「議決権の数」欄には、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式に係る議決権の数10個は含まれておりません。
- 3 「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が50株、当社所有の自己株式が30株含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
大日本住友製薬株式会社	大阪市中央区道修町 二丁目6番8号	588,200		588,200	0.15
計		588,200		588,200	0.15

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の中に含まれております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,938	8,268
受取手形及び売掛金	107,803	91,599
有価証券	90,921	103,879
商品及び製品	38,442	36,171
仕掛品	2,388	3,512
原材料及び貯蔵品	15,140	15,108
繰延税金資産	33,489	33,122
短期貸付金	25,000	25,000
その他	4,998	6,714
貸倒引当金	122	104
流動資産合計	332,999	323,274
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	91,227	90,774
減価償却累計額及び減損損失累計額	49,497	49,655
建物及び構築物（純額）	41,730	41,118
機械装置及び運搬具	77,089	76,815
減価償却累計額及び減損損失累計額	65,030	66,059
機械装置及び運搬具（純額）	12,058	10,756
土地	10,291	10,260
建設仮勘定	941	1,482
その他	27,529	27,742
減価償却累計額及び減損損失累計額	22,758	23,025
その他（純額）	4,771	4,716
有形固定資産合計	69,793	68,334
無形固定資産		
のれん	70,369	68,618
特許権	2 60,984	2 48,264
その他	11,912	11,259
無形固定資産合計	143,266	128,143
投資その他の資産		
投資有価証券	27,922	28,051
繰延税金資産	7,023	9,365
その他	8,961	9,235
貸倒引当金	99	109
投資その他の資産合計	43,807	46,542
固定資産合計	256,868	243,020
資産合計	589,868	566,294

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,647	16,770
短期借入金	50,000	-
1年内返済予定の長期借入金	10,600	10,000
未払法人税等	7,678	8,796
賞与引当金	7,431	7,679
返品調整引当金	2,289	3,031
売上割戻引当金	15,875	16,398
その他	47,681	36,015
流動負債合計	157,203	98,692
固定負債		
社債	50,000	70,000
長期借入金	43,000	53,000
退職給付引当金	10,266	10,626
その他	5,414	5,489
固定負債合計	108,680	139,115
負債合計	265,884	237,808
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,400	22,400
資本剰余金	15,860	15,860
利益剰余金	304,186	310,180
自己株式	648	649
株主資本合計	341,798	347,791
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,413	5,694
為替換算調整勘定	23,228	24,999
その他の包括利益累計額合計	17,814	19,305
純資産合計	323,983	328,486
負債純資産合計	589,868	566,294

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	188,574	178,026
売上原価	57,845	49,766
売上総利益	130,729	128,260
返品調整引当金戻入額	20	-
返品調整引当金繰入額	-	7
差引売上総利益	130,749	128,253
販売費及び一般管理費		
給料	17,471	18,168
賞与引当金繰入額	4,812	5,156
研究開発費	32,807	27,288
その他	60,716	62,913
販売費及び一般管理費合計	115,808	113,526
営業利益	14,941	14,726
営業外収益		
受取利息	241	195
受取配当金	474	397
その他	1,165	833
営業外収益合計	1,881	1,426
営業外費用		
支払利息	874	599
寄付金	900	720
その他	666	352
営業外費用合計	2,441	1,671
経常利益	14,381	14,480
特別利益		
固定資産売却益	-	1,235
特別利益合計	-	1,235
税金等調整前四半期純利益	14,381	15,716
法人税等	5,730	6,146
少数株主損益調整前四半期純利益	8,650	9,569
四半期純利益	8,650	9,569

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,650	9,569
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,051	280
為替換算調整勘定	9,253	1,770
その他の包括利益合計	11,304	1,490
四半期包括利益	2,654	8,079
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,654	8,079
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,381	15,716
減価償却費	20,749	18,394
のれん償却額	2,027	1,962
退職給付引当金の増減額(は減少)	386	32
その他の引当金の増減額(は減少)	508	1,701
受取利息及び受取配当金	715	592
支払利息	874	599
有形固定資産売却損益(は益)	2	1,235
売上債権の増減額(は増加)	3,131	16,021
たな卸資産の増減額(は増加)	6,325	1,130
仕入債務の増減額(は減少)	3,348	1,118
未払金の増減額(は減少)	4,270	9,019
その他	2,221	4,771
小計	37,825	41,058
利息及び配当金の受取額	891	682
利息の支払額	945	563
法人税等の支払額	7,740	7,064
営業活動によるキャッシュ・フロー	30,030	34,113
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	3,316	22,064
有価証券の売却による収入	750	5,863
有価証券の償還による収入	5,219	14,783
有形固定資産の取得による支出	3,377	3,989
有形固定資産の売却による収入	30	1,935
無形固定資産の取得による支出	832	1,021
無形固定資産の売却による収入	1,142	-
投資有価証券の取得による支出	2,476	1,856
投資有価証券の売却による収入	1,916	410
投資有価証券の償還による収入	1,502	7
その他	242	375
投資活動によるキャッシュ・フロー	314	6,307
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	5,500	50,000
長期借入れによる収入	-	15,000
長期借入金の返済による支出	-	5,600
社債の発行による収入	-	19,895
自己株式の純増減額(は増加)	0	0
配当金の支払額	3,573	3,575
その他	46	33
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,120	24,314
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,223	158
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	20,001	3,332
現金及び現金同等物の期首残高	58,139	82,868
現金及び現金同等物の四半期末残高	78,140	86,201

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
	第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
1 偶発債務 (1) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して債務保証を行っております。 サンノー食品株式会社 277百万円 (2) 当社従業員の金融機関からの住宅資金借入金に対して債務保証を行っております。 152百万円	1 偶発債務 (1) 連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して債務保証を行っております。 サンノー食品株式会社 313百万円 (2) 当社従業員の金融機関からの住宅資金借入金に対して債務保証を行っております。 153百万円
2 特許権には販売権等が含まれております。	2 同左

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は以下のとおりであります。 (平成22年9月30日)	現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は以下のとおりであります。 (平成23年9月30日)
現金及び預金勘定 14,683百万円	現金及び預金勘定 8,268百万円
取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券) 63,457百万円	取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券) 77,932百万円
現金及び現金同等物 78,140百万円	現金及び現金同等物 86,201百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	3,575百万円	9.00円	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	3,575百万円	9.00円	平成22年9月30日	平成22年12月1日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	3,575百万円	9.00円	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	3,575百万円	9.00円	平成23年9月30日	平成23年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	日本(医薬)	米国	中国	計		
売上高						
外部顧客への売上高	100,767	60,761	2,500	164,028	24,546	188,574
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,238	2,206	371	3,816	19	3,836
計	102,005	62,967	2,871	167,844	24,566	192,410
セグメント利益又は損失()	16,348	3,266	846	13,927	1,089	15,017

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物用医薬品、食品添加物、診断用薬等の事業を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	13,927
「その他」の区分の利益	1,089
セグメント間取引消去	75
四半期連結損益計算書の営業利益	14,941

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	医薬品事業						
	日本	北米	中国	海外 その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	88,623	56,170	3,355	9,769	157,918	20,107	178,026
セグメント間の内部 売上高又は振替高	124				124	44	168
計	88,748	56,170	3,355	9,769	158,043	20,151	178,195
セグメント利益	33,878	1,107	905	4,488	40,380	1,617	41,998

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品素材・食品添加物および化学製品材料、動物用医薬品、診断薬等の事業を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	40,380
「その他」の区分の利益	1,617
研究開発費(注)	27,288
セグメント間取引消去	17
四半期連結損益計算書の営業利益	14,726

(注) 当社グループは、研究開発費をグローバルに管理しているため、セグメントに配分していません。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、日本、北米、中国等マーケット毎の医薬品事業の業績管理を強化する目的でグループ内の損益管理区分を変更したことに伴い、報告セグメントの区分方法を従来の日本(医薬)、米国、中国の3区分から、日本、北米、中国、海外その他の4区分に変更しております。これにより、従来日本(医薬)セグメントに含めておりました当社の海外向け取引にかかる業績は、北米、中国、海外その他の各セグメントに含めております。

また、第1四半期連結会計期間から、研究開発費をグローバルに管理しているため各セグメントに配分を行っていません。これにより、セグメント利益を従来の営業利益ベースから、研究開発費控除前の営業利益ベースへと変更しております。

前連結会計年度の対応する四半期連結累計期間について、変更後の区分方法により作成した報告セグメント毎の売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は、以下のとおりであります。

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	医薬品事業						
	日本	北米	中国	海外 その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	90,220	60,761	2,659	10,387	164,028	24,546	188,574
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20				20	19	40
計	90,240	60,761	2,659	10,387	164,048	24,566	188,615
セグメント利益	33,904	5,966	962	5,422	46,256	1,467	47,723

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物用医薬品、食品添加物、診断用薬等の事業を含んでおります。

また、報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	46,256
「その他」の区分の利益	1,467
研究開発費	32,807
セグメント間取引消去	25
四半期連結損益計算書の営業利益	14,941

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	21円77銭	24円09銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	8,650	9,569
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	8,650	9,569
普通株式の期中平均株式数(千株)	397,315	397,312

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(1)中間配当

平成23年10月31日開催の取締役会において、第192期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)の中間配当(会社法第454条第5項の規定による剰余金の配当)を当社定款第35条第2項の規定に基づき、次のとおり行う旨決議しました。

中間配当金の総額 3,575百万円

1株当たりの金額 9円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成23年12月1日

(2)訴訟

当社の連結子会社であるサノピオン社は、平成19年4月、同社の長時間作用型 作動薬「プロバナ」について、デイ社から同社保有の製剤および用途に関する米国特許を侵害しているとして、米国ニューヨーク州南部連邦地方裁判所に提訴されており、現在係争中であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月11日

大日本住友製薬株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小堀 孝一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 研了 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 東浦 隆晴 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大日本住友製薬株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大日本住友製薬株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。